

「おおけやき」では、上毛新聞のジュニア
俳壇・ジュニア詩壇・青春短歌に掲載された
本校児童の作品をご紹介します。

俳句の部

(三月二十九日掲載)

二年 すなが ぶじこ
ふゆのかげあかちゃんだったらこんじゃいそう

五年 布下 蒼梓
湯たんぽは布団の中のサッカーボール

二年 ぬのした しおり
草もちにおばあちゃんのゆびのあと

五年 酒井 美羽
つばきがね雪に包まれかがやくよ

(四月十一日掲載)

二年 ぬのした しおり
なむすぎて手ぶくろの中に入りたい

五年 栗原 奈々美
さむい朝つさがすみでねむってる

六年 千葉 志織
てぶくろも遊びつかれた雪遊び

(四月十八日掲載)

三年 まちだ ゆうり
いっしゅにねがったつういこうよはるのかぜ



(五月九日掲載)

二年 ぬのした しおり
はるのとりおだやかなはねでとんでいる

四年 みね川 おう太
休み時間光がさしこむペランダのまご

(現中一) 戸塚 博理
朝おきて二度ねをさそつエアコンさま

(五月十六日掲載)

三年 内田 たかのり
なの花が光のたばをブレゼント

二年 ち木 晴子
つくしはねせのびの名人のびのびと

六年 千葉 志織
春の花一人一人に夢がある

(五月二十三日掲載)

五年 布下 蒼梓
芝の上ふんわり座る桜かな

(五月三十日掲載)

六年 松井 ななみ
黒板が「おはよう」という春の朝

(六月六日掲載)

六年 千葉 志織
自転車で桜咲く場所めぐってる



(六月十三日掲載)

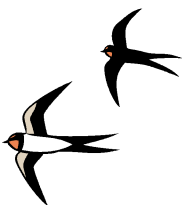
二年 も木 晴子
ばらのひかりおひさまのひかりにまけません

四年 関口 凌大
ばらの花夕日をのせて美しく

三年 石原 陽人
夏が来たもうすべ田うえがはじまるぞ

四年 にし山 ゆ月
つばめの子はじめて飛びよどこいくの

六年 和田 悠叶
大けやきみどりの葉つばひかってる



(七月四日掲載)

二年 こぼやし みう
おひさまはバラがだいすき 100こほしい

二年 ぬの下 しおり
ここのほりかぞくといっしょに見ていたよ

五年 町田 百菜実

おひさまの光あつまり新緑だ

五年 酒井 美羽

春の風いつもいっしょの通学路

短歌の部

(四月十日掲載)

二年 ぬのした しおり
おふとんにはいるとなぜかちょうどいいあた
たかさになるふしぎだね

五年 布下 蒼梓

ししゃものねふつくらおなかにびっしたまご
口の中で泳ぎ出したら面白い

五年 小野 ゆめか

外に出てマスクをしている人多く自分もしよ
うかまよいはじめる

五年 いけがめ しょうい

かるたでねつるまうかたちのぐんまけんそれ
がみんなの人気者

五年 戸塚 ひなり

外の池けさは氷って鳥歩くまるでスケートし
ているみたい

五年 永田 龍汰

雪だるま自分で作って楽しもうかさってオシ
ヤしもいいかもね

五年 羽鳥 陽香

冬の鳥朝早くから鳴いている小さな鳥の合唱
団

(五月八日掲載)

五年 布下 蒼梓
雷の音と妹の泣き声でほくの部屋はお化けや
しきだ

(五月二十二日掲載)

二年 ぬのした しおり
おねぼうするとママがふとんをはがすんだぶ
るっとふるえて目がさめる

(六月二十六日掲載)

二年 ぬのした しおり
おかあさんまえがみきるのしっぱいしたおか
げでかおがへんになった

五年 ぬのした あおし
春の朝気持ちよすぎて体には起きたい気持ち
が伝わらない

(七月三日掲載)

二年 ぬのした しおり
シャボン玉うつった私を空たかくつれていく
んだどこまでも

(朝の一句掲載)

五年 北爪 美空
春の水小さな雲のかげうつす

五年 戸塚 ひなり
春にはね自分も一つ変わるんだ

四年 岩川 しんぺい
春の風春の出来事運んでく

二年 せき えいと
はるのみずつりしてたのしいとんとんつれる

六年 長谷川 翼
さんかん日じょう文時代発表だ

三年 寺山 幸来

おひさまがキラキラ光るバラ園で

